



we are

Caritas

新型コロナウイルス感染症緊急募金 中間報告

カリタスジャパンが「新型コロナウイルス感染症緊急募金」の受付を開始してから一年以上が経過しました。この間の皆様のご協力に改めて御礼を申し上げ、この一年の概況をご報告いたします。

また、今後もコロナ危機は続くとの見方から支援を継続してまいりますので、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

- 寄付総額: 80,578,866円
- 寄付者(個人/団体): 2,539
- 支援先: 国内42団体/海外6団体
- 支援総額: 81,631,42円
- 支援対象者: 4万人以上

(2020年4月から2021年5月実績)

●コロナ支援国内内訳

Category	Percentage
済日外国人	31%
住まいの確保	14%
食糧衣料支援	26%
居場所の確保	10%
要介護/介助者	7%
情報アクセス	7%
医療支援、感染対策	5%

援助実績一覧(2021年1月~4月)

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
緊急支援要請	エチオピア	平和的共存のための人道活動	カリタスエチオピア	525,900
	スーダン	東スーダンにおけるエチオピア難民支援	カリタススーダン	1,039,800
	モザンビーク	サイクロンイダイからの復興プロジェクトフェーズ2	カリタスマザンビーク	634,150
	クロアチア	クロアチアにおける地震被災者へのシェルター提供支援	カリタスクロアチア	639,950
	インドネシア	西部スラウェシ地震への緊急対応	カリタスインドネシア	527,750
	中央アフリカ	5つの地域における紛争被害者支援	カリタス中央アフリカ	639,950
	アルメニア	アルメニア紛争被害者への日用品・シェルター支援	カリタスアルメニア	649,400
海外援助	バングラデシュ	チッタゴン丘陵地帯における少数民族のための教育プログラム	カリタスバングラデシュ	5,315,000
	キルギスタン	カリタスキルギスタン組織強化支援2021	カリタスキルギスタン	1,292,300
	キルギスタン	天文キャンプ事業2021	カリタスキルギスタン	1,389,222
	カンボジア	FVSDC支援事業2021	カリタスカンボジア	3,264,600
	エルサレム	西岸地区、東エルサレム、ガザ地区における、医療・社会サービス支援	カリタSELサレム	2,179,600
新型コロナ緊急支援(国内)	東京教区	フードバンチャー(ひとり親家庭・生活困窮者・路上生活者・滞在外国人対象)	カトリック大森教会 PANEの会	2,000,000
	東京教区	2021年度SARC東京性暴力被害者支援事業	性暴力救援センター東京	1,000,000
	横浜教区	難民認定申請者等生活支援事業	わたぼうし教室	2,000,000
	東京教区	新型コロナウイルス影響下における子育て貧困世帯対策としての食支援事業	フードバンクTAMA	2,000,000
国内援助	東京教区	人種差別撤廃法・条例の整備及び運用支援プロジェクト	外国人人権法連絡会	3,000,000
東日本大震災	大阪教会管区	大阪教会管区大船渡ベース支援活動(2021年1-3月)	大阪教会管区大船渡ベース	3,697,017
	大阪教会管区	大阪教会管区南三陸ベース支援活動(2021年1-3月)	大阪教会管区南三陸ベース	54,183
	仙台教区	被災地復興支援事業	カリタス釜石	3,266,471
	東京教区	災害対応マニュアルワークショットレーナー業務	JLMM	155,000

編集後記

今回のWe are Caritasで取り上げたラウダートシに掲げられたゴール、「Response to the Cry of the Earth」「Response to the Cry of the Poor」。今回のWe are Caritasの制作は、私達にとっても、家族の叫びに耳を傾け、私達の家の痛みを感じる一つの機会となりました。私たちが皆、つながっている家族の一員で、地球の一部であることを思い起しながら、皆様の愛を届ける活動に取り組んで参りたいと思います。



We are Caritas No.22(2021年7月号)
郵便振替番号 00170-5-95979
宗教法人トリック中央協議会 カリタスジャパン
発行人 菊地 功
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp URL https://www.caritas.jp

f <https://www.facebook.com/caritasjapan>

THE LAUDATO SI' GOALS



ラウダート・シ・アクション・プラットフォームを発表した際の教皇フランシスコ(動画より抜粋)

カリタスジャパンの活動への
ご支援を今後とも
よろしくお願ひいたします

カリタスジャパンの活動は皆様の日ごろの
募金と「四旬節愛の献金」によって支えら
れています。募金専用のゆうちょ銀行払込
票をご用意しておりますので事務局まで
ご請求ください。

◎匿名をご希望の方、払込票の所定欄
に印、または通信欄に明記ください。
◎ご意向について、払込票の所定欄に印、
または通信欄に明記ください。
※記入がない場合は「最優先の援助先」と
させていただきます。
※「呼びかけ受付中の募金」は、カリタ
スジャパンのホームページにてご案内して
おります。

【2021年1月1日～5月31日の献金額】
(単位:円)
CJ運営寄付 1,444,249
本年四旬節 42,382,170
国内援助 4,001,239
海外援助 19,557,051
クリスマス募金 4,404,578
マンスリーサポーター 3,999,500
東日本大震災 2,297,556
スダーン支援 56,083
新型コロナ募金 5,021,804
合計 83,164,230
東日本大震災の募金受付は3月末日を以て
終了しております。

カリタスジャパンは教皇の呼びかけに応え、より一層全体的な視野を持って活動を進めています。七つの目標の視点から自分の生活を振り返り、次の世代に残していく世界を、希望のうちにともに造って参りましょう。皆様のご協力を願っています。

カリタスジャパン担当司教 成井大介

地球の叫び、貧しい人々の叫びに私たちはどうこたえるか？

「地球の叫びへの応答」「貧しい人々の叫びへの応答」というラウダート・シ・ゴールの姿勢は、カリタスジャパンの支援活動の指針です。

"Response to the Cry of the Earth" "Response to the Cry of the Poor"

日本では

CRY・叫び



「彼女は私だ」

コロナによる影響が女性に集中的に現れていることは世界で共通しており、女性不況(she-cession)や隠れたパンデミック(shadow pandemic)と言われています。日本でもコロナによる影響で職を失った人は飲食・サービス業で働く非正規女性が多く、65万人にも達しています。社会を支える看護、介護、小売などセッセンシャルワーカーの多くは女性であり、感染の危機に晒されながら懸命に働いているにもかかわらず、働きに見合う対価が支払われていません。またステイホームによる家庭内暴力の増加や未成年者の望まない妊娠、少女への影響が懸念されており、2020年夏以降、女性の自殺率が急増(前年比15.4%増)しています。

昨年末、コロナ禍で販売の仕事を失い、ホームレス状態になった女性が東京・渋谷で殺害される事件が起り、「彼女は私だ」と多くの女性たちが声を上げました。女性への雇用差別や「イエ」を出たら瞬く間に貧困に転落する困難は以前から存在しています。私たちはコロナ禍で顕(あらわ)になった現実に立ち向かうとともに、構造的なジェンダー不平等にも目を向けていく必要があるでしょう。

飯島裕子(カリタスジャパン委員、ノンフィクションライター)

応答・RESPONSE

カリタスジャパンは、生活困窮に陥ったひとり親家庭への食料支援、DVや性暴力に関する相談事業、シェルター運営など、コロナ禍でさらに弱い立場におかれた女性たちに寄り添い、今日を生きぬくための支援を続けています。新型コロナウィルス感染症が世界の女性のくらし(健康、経済、安全、社会保障に至るまで)に影響を及ぼしていますが、社会構造そのもののジェンダー格差が大きい日本では、その影響がより深刻に顕在化しているのです。



NPO法人レジエンス こころのCare(ケア)講座の教室

CRY・叫び



コロナ禍だから、今、子どもたちに居場所を!

経験したことのない閉塞感が長期化し、子どもたちには特に精神的な追い込み・負担と未知なる先行きへの不安が、女性たちには特に不安定雇用から来る休業・失業と増加した家庭育児の負担が、これまで自分で処理できていたストレスを抱え込み続けている母親が、増加しています。家庭が子どもや母親にとって必ずしも安全な場所ではなくなり、その上、学校や保育所が休みとなったり、乳幼児健診や児童相談所の家庭訪問の中止が相次ぎだした影響が長引き、子育て家庭の孤立が進んでいます。親子が、とりわけ子どもたちが、日本の社会で取り残されている状況がコロナ禍で顕在化されました。

2020年度自殺者数(前年度比)

小学生14人(+6人)、中学生146人(+34人)、高校生339人(+60人全員女子)
10歳代の自殺者数: 小中高生を含めて777人(+188人)
20歳代の自殺者数: 2521人(+404人)

誰一人取り残さない社会は、一人の子どもの抱える問題が社会全体の課題となって初めて目指せるものです。私たち大人にできることは、「生きてて楽しいよ」と思えるいろんな居場所を用意すること…教会もそうあればいいと思います。

莊保共子(カリタスジャパン委員、認定NPO法人こどもの里)

応答・RESPONSE

CRY・叫び



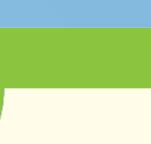
難民と地域をつなぐ「おとしより食堂」

昨年4月、コロナによる緊急事態宣言が初めて出た時、私たちはシナビスに集う難民たちに当座の現金を手渡して事務所を閉鎖しました。5月の大型連休明けに扉と窓を開放すると、続々と難民たちが戻ってきました。たった一ヶ月で老け込んだ人、直近の数日はご飯に塩をふって子に与えた母親、社会的距離そっちのけでハグする若者。皆、耐えがたい孤独に眠れぬ日々を過ごしていたのでした。残念ながら社会は引き続き5月末まで止りましたから、私たちも再び皆に現金を渡したところ、受け取りを躊躇(ためら)う人が何人もいたのでした。援助金を手渡す時には「奉仕活動への感謝として」という形にしなければ、人の尊厳を傷つけるのだと痛感しました。

「お年寄り食堂」はそんな背景から生まれたのです。難民たちが地域の高齢者をもてなすお食事処。食堂は全て難民主体で運営され、おのの自慢の祖国料理をぶるまいます。大阪にお越しの際にはぜひお立ち寄り下さい。ワンコインカンパンもよろしく!

ビスカルド篠子
(カリタスジャパン委員、大阪大司教区社会活動センター・シナビス)

応答・RESPONSE



CRY・叫び

カリタスジャパンは、言語や在留資格の壁によって公的支援につながりにくい外国人への食糧や生活物資の支援、医療相談、住まいの提供など、移民・難民のいのちと尊厳を守るための活動を支援しています。コロナ禍では、有期雇用で働く外国人が真っ先に雇い止めにされ、借金を背負って来日した技能実習生が雇用先の業績不振を理由に解雇されるなど、平時から社会の中で弱い立場に置かれた移民・難民のくらしがますます追い込まれているのです。



お年寄り食堂に飾る花を購入した難民たち

CRY・叫び



「助けて」と言えない若者たち

このコロナ禍で、一人で思いや悩みを抱え込み、普段にもまして孤立感を深め、「自分なんかいてもしかたない」「消えてなくなりたい」「生まれてこなければよかった」と追い込まれている若者たちが増えています。オンライン授業の実施や部活動の自粛などで他者との対面の関わりが少ない日々。就職活動の内定取り消しや失業、アルバイト収入が失われ、生活費、学費、奨学金などを賄う見通しが立たなくなる、家計が生活保護基準を下回る状況になってしまったが、大学を辞めなければ生活保護を申請できないという不合理など、コロナ禍では精神的、経済的な不安や、それを相談できない孤立感、閉塞感が若者たちを襲います。

若者は「他者との相互作用を通じて自己を形成していくもの」と言われています。このような若者たちに向かい合い、彼らの抱える孤立感や絶望感に、わたしたちはどのように寄り添うことができるでしょうか。

*スイスの青少年福祉機関スタッフのことば
アフターケアアユザリは、若者の就労支援の場「ジャム工房」の一コマ(写真はコロナ禍前)

応答・RESPONSE



CRY・叫び

カリタスジャパンは、若年層を対象にした相談事業や居場所づくりを通して、若者たちのいのちに寄り添い、未来につなぐための支援を実施しています。虐待や貧困、親との死別などによって、家庭という基盤を持てない子どもたちは、児童養護施設などで過ごし、18歳に達する、または中学、高校を中退した時点で自立や自活を余儀なくされます。さまざまな事情を背負っている若者にとって、社会的に自立していくことは、大きな困難を伴うのです。



アフターケアアユザリは、若者の就労支援の場「ジャム工房」の一コマ(写真はコロナ禍前)

私たちの日頃の暮らしの中から生まれる環境汚染や地球温暖化は、干ばつ、洪水などの大災害を招き、地球の叫び(地球環境の危機)となって表れます。

そのような地球環境の危機は、真っ先に貧しい人々を直撃し、あらゆる叫びとなって、私たちの社会そのものを脅かし(社会の危機)、一人ひとりの人間の尊厳を踏みにじるような事象をもみだします。

本頁では、昨年から世界を一変させた新型コロナ感染症禍におけるカリタスの活動を紹介します。感染症もまた、真っ先に、日ごろから脆弱な暮らしを強いられている人々のいのちを脅かしているのです。

世界では

叫びと応答



紛争

[イラク] 紛争下の取り組み

2003年のアメリカによるイラク攻撃以降、度重なる内紛や過激派の市民虐殺によって、イラク社会は荒廃し、人々の心には消えない傷が残っています。今年3月、教皇フランシスコは、教皇として初めてイラクを訪れ「暴力と過激主義に終結」を呼びかけ「あなたがたは皆兄弟です」と述べました。カリタスジャパンはカリタスイラクと協働し、紛争被害者の生活支援や心のケアを継続的に行っています。



CRY&RESPONSE

昨年3月のアメリカによるイラク攻撃以降、度重なる内紛や過激派の市民虐殺によって、イラク社会は荒廃し、人々の心には消えない傷が残っています。今年3月、教皇フランシスコは、教皇として初めてイラクを訪れ「暴力と過激主義に終結」を呼びかけ「あなたがたは皆兄弟です」と述べました。カリタスジャパンはカリタスイラクと協働し、紛争被害者の生活支援や心のケアを継続的に行っています。

叫びと応答



サイクロンで家を失った女性 ©Caritas Internationalis



CRY&RESPONSE

昨年3月のアメリカによるイラク攻撃以降、度重なる内紛や過激派の市民虐殺によって、イラク社会は荒廃し、人々の心には消えない傷が残っています。今年3月、教皇フランシスコは、教皇として初めてイラクを訪れ「暴力と過激主義に終結」を呼びかけ「あなたがたは皆兄弟です」と述べました。カリタスジャパンはカリタスイラクと協働し、紛争被害者の生活支援や心のケアを継続的に行っています。

叫びと応答



CRY&RESPONSE

[ネパール] 出稼ぎに頼らずに生きる

ネパール国内では職業に就けず、出稼ぎを強いられている貧困層の人々が、隣国インドに出稼ぎに出ています。しかし、コロナ禍によって失業し、帰国を余儀なくされました。カリタスネパールでは、病を抱えて帰国した人々のケア、出稼ぎに頼らずとも就業できるような生活向上のための職業訓練、出稼ぎ等斡旋業者とのトラブル回避するための講習会などを実施し、皆が健康に、生活の基盤を築いていく支援を行っています。



CRY&RESPONSE

叫びと応答



支援によって学校に行くようになった学生たち ©Caritas Faisalabad

パキスタン第3の都市ファイザラバードでは、コロナ禍での親の失業などにより、大学や専門学校に通えなくなった学生たちに奨学金の支援を行っています。現地スタッフのアニールさんによると、この奨学金で少なくとも7割の学生が卒業できるそうです。高等教育は将来の国を支える人材育成のために、また明るい未来づくりの種を蒔き、多くの人の希望の光を生み出すために必要な支援です。